

令和7年度年間指導計画

教科	国語	学年	1	教科書	高等学校 標準現代の国語（第一学習社）
	科目	クラス	A・B		常用漢字ダブルクリア 新コンセプト 現代の国語
		単位数	2		担当者 小笠原 友幸

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり身に付ける。				
	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者と社会に関わりあう態度を養う。				
	・題材を読み、構成や内容を理解する。個やグループで考え、交流する。 ・語句の用法や意味を理解し、自分で活用して文章を作成する。 ・各種課題等に取り組む。基礎基本の定着をはかる。				
学習評価	評価の観点				
	当該科目の評価の留意				
	a 知識・技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 b 思考・判断・表現 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力。文章の、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者と社会に関わりあう、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しみこととで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとに、定期考査等に取り組む。基礎基本の定着をはかる。				

学期	単元/題材	学習活動	評価の観点 a b c	単元の評価規準	評価方法
前期 中間	漢字検定対策 (ダブルクリア)	・小テスト ・問題演習	○	a 主な常用漢字の読みや書ける。 b 漢字の用法を正しく理解し、活用している。 c 他人のスピーチを聞き取り、評価する方法を学ぼうとしている。	小テストの結果 課題提出
	【表現編】 スピーチで自分を伝える	自己紹介をする。	○	a 進んで表現や話し方を工夫し、効果的に話そうとしている。 b 積極的にスピーチを聞き、評価シートを活用して評価している。	発表態度 評価シート
	【理解編】 なぜ本を読むのか	筆者の考える読書の効用について、文章構成をもとに理解し、自分の考えからして考えを深める。	○	b 読書の効用について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述している。 c 読み書きと書き言葉の特徴を理解している。 a 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 b 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿って要旨をまとめている。	発言、話し合いの様子 定期考査 小テスト 発問評価 ノート点検
	【理解編】 言語としてのピクトグラム	ピクトグラムが持つ「言語」としての機能を理解し、言語表現の多様性について考えを深める。	○	b ピクトグラムが持つ「言語」としての機能を理解し、言語表現の多様性について考えを深めようとしている。 c 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈している。 a 言葉には、認識や思考を支えるはたらきがあることを理解している。 b 例示などの修辭を理解している。 c 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿って要旨をまとめている。	発言、話し合いの様子 指名音読 発問評価 定期考査 小テスト 課題提出 ノート点検 授業態度
	【表現編】 話し方の工夫	・話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。 ・相手・目的・場面に応じた言葉遣いを理解する。	○	b 相手により伝わりやすい表現方法を理解している。 c 積極的に話し言葉と書き言葉の違いを理解し、学習課題に沿って話し合おうとしている。 d 積極的に場の状況に応じて言葉遣いを選び、学習課題に沿って使おうとしている。	発言、話し合いの様子 発問評価 ノート点検 ワークシート
	【表現編】 書き方の基礎レッスン	・表現の基本的ルールを理解する。 ・接続表現の種類や用法を理解する。 ・接続文を書く。	○	b 相手の見通しをもって接続表現の種類や用法を理解し、適切な接続表現を選ぶことができる。 c 条件に合う、表現をまとめることができる。	発言、話し合いの様子 ワークシート 課題提出 定期考査
	【理解編】 水の東西	東西の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。	○	b 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。 c 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。	発言、話し合いの様子 指名音読 発問評価 小テスト ノート点検 定期考査
	【理解編】 ステレオタイプの落とし穴	ステレオタイプとは何かを説明するための論理関係を把握し、筆者の主張について理解を深める。	○	b 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。 c 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。	発言、話し合いの様子 指名音読 発問評価 小テスト ノート点検 定期考査
	【理解編】 人はなぜ仕事をやるのか	本文で使われている「人」という言葉の意味を考え、筆者が述べる仕事の事柄について考察する。	○	b 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。 c 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。	発言、話し合いの様子 指名音読 発問評価 小テスト ノート点検 定期考査
	【表現編】 地域の魅力を紹介する。	情報を的確に紹介する方法を理解する。 ・必要情報や資料を収集し、整理し、わかりやすい紹介文を書くために活用する方法を理解する。	○	b 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。 c 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。	発言、話し合いの様子 ワークシート 課題提出 ノート点検 成果物
後期 中間	【理解編】 イースター島の謎がいかに	イースター島の歴史について理解し、筆者が提示する人類と生態系のあり方について考察する。	○	b 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。 c 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。	発言、話し合いの様子 指名音読 発問評価 小テスト ノート点検 定期考査
	【表現編】 相手に伝わる案内をする。	・目的に沿って的確に案内する方法を理解する。 ・相手に配慮しながら案内する方法を理解する。	○	b 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。 c 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。	発言、話し合いの様子 ワークシート 課題提出 ノート点検 定期考査
	【理解編】 黄色い花束	コノボの話と筆者の子供時代の話との関係性を捉え、子供たちに対する筆者の思いについて考えを深める。	○	b 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。 c 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。	発言、話し合いの様子 指名音読 発問評価 小テスト ノート点検 定期考査
	【表現編】 社会に対する意見を書く	意見文とはどういうものかを理解する。 ・自分の経験の中から意見を出せるようになる。 ・意見の書き方を理解し、実践し、評価する。	○	b 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。 c 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。	発言、話し合いの様子 ワークシート 課題提出 リフレクション
	【表現編】 社会に対する意見を書く	意見文とはどういうものかを理解する。 ・自分の経験の中から意見を出せるようになる。 ・意見の書き方を理解し、実践し、評価する。	○	b 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。 c 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。	発言、話し合いの様子 ワークシート 課題提出 リフレクション
	【表現編】 社会に対する意見を書く	意見文とはどういうものかを理解する。 ・自分の経験の中から意見を出せるようになる。 ・意見の書き方を理解し、実践し、評価する。	○	b 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。 c 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。	発言、話し合いの様子 ワークシート 課題提出 リフレクション
	【表現編】 社会に対する意見を書く	意見文とはどういうものかを理解する。 ・自分の経験の中から意見を出せるようになる。 ・意見の書き方を理解し、実践し、評価する。	○	b 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。 c 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。	発言、話し合いの様子 ワークシート 課題提出 リフレクション
	【表現編】 社会に対する意見を書く	意見文とはどういうものかを理解する。 ・自分の経験の中から意見を出せるようになる。 ・意見の書き方を理解し、実践し、評価する。	○	b 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。 c 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。	発言、話し合いの様子 ワークシート 課題提出 リフレクション
	【表現編】 社会に対する意見を書く	意見文とはどういうものかを理解する。 ・自分の経験の中から意見を出せるようになる。 ・意見の書き方を理解し、実践し、評価する。	○	b 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。 c 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。	発言、話し合いの様子 ワークシート 課題提出 リフレクション
	【表現編】 社会に対する意見を書く	意見文とはどういうものかを理解する。 ・自分の経験の中から意見を出せるようになる。 ・意見の書き方を理解し、実践し、評価する。	○	b 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。 c 文章の対比関係をいながら、日本の水文化に表れる特徴について関心する叙述の方法を把握する。	発言、話し合いの様子 ワークシート 課題提出 リフレクション

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期 中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
	知識・技能	35	25	10
前期 末	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
後期 中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
	知識・技能	35	25	10
後期 末	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	国語	学年	1	教科書	高等学校 標準言語文化 (第一学習社)
科目	言語文化	クラス	A・B	副教材	新コンセプト 言語文化
		単位数	2	担当者	浅水 理香
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることを目指す。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
学習方法	・音読を通して歴史的かなづかいや古語の言い回しに慣れる。 ・題材を読み、構成や内容を理解する。個やグループで考え、交流する。 ・語句の用法や意味を理解し、現代語訳に取り組む。 ・各種課題等に取り組み、基礎基本の定着をはかる。				
学習評価	評価の観点 当該科目の評価の趣旨 a 知識・技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 b 思考・判断・表現 「書くこと」、「読むこと」の各種場において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもつとしている。 定期考査については、上記a,bの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。				
学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点 a b c	単元の評価規準	評価方法
前期中間	【日本文学編】近現代 たんかつ	謎の母の登場に始まる謎の構成と展開を理解し、せりふや行動から人物像と心情を読み取る。	○ ○ ○	b 小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉えている。 b 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 a 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	授業態度 定期考査 指名音読 ワークシート
			○	a 読書の意義と効用を理解している。	ノート提出 定期考査
	【日本文学編】古文 古文の学習 明のそら書 三文にて曲二つ	・わが国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しみよとの意義を知る。 ・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる語のおもしろさや人間関係の巧みさを知る。	○ ○ ○	b 古文を読むために「活用」を活用し、歴史的仮名遣いや品詞について理解している。 b 説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えている。 a 主として歴史的仮名遣いや古言・古語について、文語のきまりを理解している。 a 主として品詞の種類について、文語のきまりを理解する。 c 積極的に説話を味わい、互いに話のおもしろさを伝え合おうとしている。	授業態度 発言、話し合いの様子 指名音読 ワークシート 小テスト ノート提出 定期考査
			○	c 積極的に説話を味わい、互いに話のおもしろさを伝え合おうとしている。	定期考査
前期末	【漢文学編】 漢文入門	・古典としての漢文を読むことの意味を知る。 ・漢文を訓読するための基礎知識として、送り点の種類と使い分け(半字のはたらきと意味、再読文字の種類と読み方を習得する。	○ ○ ○	a 故事成語や格言に多く触れることにより、語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 a 訓読のきまりを理解している。	授業態度 発言、話し合いの様子 指名音読 ワークシート
			○	c これからの学習に見通しをもって、漢文訓読の基礎知識を積極的に身に付けようとしている。	音読テスト ノート提出 定期考査
	【日本文学編】近現代 誕生門	下人の行動や心理をもとに場面を展開する。登場人物の語の論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。	○ ○ ○	c 日常的に使う故事成語や格言の量を積極的に増やし、漢文が我が国の言語文化と不可分の関係にあることを理解しようとしている。	授業態度 発言、話し合いの様子 指名音読 ワークシート 音読テスト ノート提出 定期考査
			○	b 小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉えている。 b 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。 a 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	授業態度 発言、話し合いの様子 指名音読 ワークシート
後期中間	【日本文学編】古文 枕草子 (うつしきもの) (中納言参りたまひて)	自由に記述された随筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。	○ ○ ○	a 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 a 主として用言の活用について、文語のきまりを理解している。 c 学習の見通しをもって読書のよきまきまりを捉えようとしている。	定期考査
			○	c 作品に表れたものの見方・考え方や素養を積極的に理解し、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。	定期考査
	【言語活動】 創作活動	詩読みコンクールに応募する。	○	b 表現の技法とその効果について理解している。 c 学習課題に沿って俳句を創作しようとしている。	授業態度 成果物
			○	b 文章の種類を踏まえて、たとえ語を読み解き、内容や展開を的確に捉えている。 b 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。 a 故事成語の由来となった語を読み、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。	授業態度 発言、話し合いの様子 指名音読 ワークシート 音読テスト ノート提出 定期考査
後期末	【日本文学編】近現代 詩 (道程) (小景異情)	・古典としての漢文を読むことの意味を知る。 ・漢文を訓読するための基礎知識として、送り点の種類と使い分け(半字のはたらきと意味、再読文字の種類と読み方を習得する。	○ ○ ○	c 故事成語の由来となった語を積極的に読み、わかった内容を工夫してまとめようとしている。	授業態度 発言、話し合いの様子 指名音読
			○	b 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。 a 近代詩の表現の技法とその効果について理解している。	指名音読 成果物 ワークシート ノート提出 定期考査
	【日本文学編】古文 徒然草 (仁和寺にある法師) (高名の木登り) (神無月のころ)	『枕草子』とは異なる思想的な随筆を読んだら、作者の批評的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。	○ ○ ○	c 詩の展開や表現の仕方を吟味し、進んで作者の思いを読み取ろうとしている。	定期考査
			○	c 詩の構成や表現の仕方を吟味し、進んで作者の思いを読み取ろうとしている。	定期考査
後期末 (学年末)	【漢文学編】 史伝を読む (鑑古牛後) (完聖) (先從機軸)	・戦国時代を背景とした各語の状況を知らるとともに、戦国の言葉が随筆を動かしていることを読み取る。 ・史伝の面白さや時代背景を知ることに伴って、作中に描かれた人物の考えや人物像を読み取る。 ・戦国時代の背景と史伝の状況を知るとともに、戦国が用いた論議の巧みさを読み取る。	○ ○ ○	b 史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えている。 b 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。 a 作品の歴史的・文化的背景を理解している。 a 訓読のきまりを理解している。	授業態度 発言、話し合いの様子 指名音読 ワークシート 音読テスト ノート提出 定期考査
			○	c 積極的に史伝の特徴を理解し、たとえ話における論議を説明しようとしている。	定期考査
	【日本文学編】近現代 鏡	恐怖体験の一つとして語られる、幽霊でも超常現象でもない、人の内面に潜む恐怖は何かを読み解く。	○ ○ ○	b 小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉えている。 b 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 a 常用漢字を文や文章の中で活用している。	授業態度 発言、話し合いの様子 指名音読 ワークシート ノート提出 定期考査
			○	a 読書の意義と効用を理解している。	定期考査
後期末 (学年末)	【日本文学編】古文 伊勢物語 (南井南)	話の中で歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。	○ ○ ○	c 人の内面に潜む恐怖の正体を進んで考察し、解釈したことを説明しようとしている。	授業態度 発言、話し合いの様子 指名音読 ワークシート ノート提出 定期考査
			○	b 歌物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えている。 b 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。 a 主として助動詞について、文語のきまりを理解している。 c 歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。	定期考査
	【漢文学編】 漢詩の世界 (春曉) (静夜思) (送元二使安西) (春望)	表現や技法(押韻や対句)に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々がどのような思いを詩に表したかを読み取る。	○ ○ ○	c 古文読解における助動詞の重要性について理解し、学習の見通しをもって助動詞の意味とたらしきを理解しようとしている。	定期考査
			○	b 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。 a 作品の歴史的・文化的背景を理解している。 a 訓読のきまりを理解している。	授業態度 発言、話し合いの様子 指名音読 ワークシート 音読テスト ノート提出 定期考査
後期末 (学年末)	【日本文学編】古文 和歌の伝統と継承	百人一首を味わう。	○ ○	b 興味を持った和歌について、積極的に味わっている。 a 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	授業態度 ワークシート
			○	c 作品に表れている情景や心情を粘り強く読み取り、これまでの学習を生かして和歌を鑑賞しようとしている。	定期考査

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	地歴・公民	学年	1	教科書	地理総合 世界に学び地域へ つなぐ(二宮書店)
科目	地理総合	クラス	A・B	副教材	新詳高等地図(帝国書院)
		単位数	2	担当者	高橋 栄一

学習目標	(1)社会的な事柄や現象に対して、地理的な見方・考え方を働かせて、課題を追及したり解決したりする活動ができる。		
	(2)広い視野に立って、グローバル化する国際社会に主体的に生きる国際人として、知識や技能を身に付ける。 (3)平和で民主的な国づくりに参画できるような社会人としての思考力・判断力・表現力を伸長する。		
学習方法	(1)単元に関する学習プリントを通して、必要とされる知識を予習・復習する。		
	(2)単元ごとに設定するテーマ学習のワークシートや活動自体を通して、情報活用の技能を習得したり、見方・考え方を磨いたりする。 (3)単元のポイントを説明したり、テーマ学習の取組を発表したりする言語活動を通して、傾聴力や伝達力を成長させる。 (4)授業での学びを、再現する機会に発揮したり、社会で役立てるために自分事として捉えたりする意識を深める。		
学習評価	評価の観点		当該科目の評価の趣旨
	a 知識・技能	地図や地理情報システムを用いて、必要な情報を適切かつ効果的に調べてまとめる技能が身に付いている。世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的規模の課題への取組を理解している。	
	b 思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境の相互関係・作用に着目して、多角的・多面的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、そのことを伝える力が養われている。	
	c 主体的に学習の取組む態度	地理に関わる諸事象について、見受けられる課題を主体的に解決しようとする態度や、地理の学びから我が国の国土に対する愛着、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などが深められている。	
	定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期 中間	第1章 地図とGISの活用	1 球面上の世界 2 世界から見た日本の位置と領域 3 国内や国家間の結びつき 4 暮らしのなかの地図とGIS	○	○	○	a: 地図等の諸資料から、基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。また、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 地図等の諸資料から課題を捉えて、必要とされる観点を考察し表現している。 c: 地図等の諸資料から関心を高め、意欲的に追求し、生き方と関連させようとしている。	①授業態度、活動の姿勢 ②学習プリント、ワークシートの点検 ③活動成果物の出来ばえ ④小テスト、定期考査
	第2章 地理的環境の特色	1 地形と生活文化 2 気候と生活文化	○	○	○	a: 地理的環境の特色を理解し、その知識を身に付けている。また、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 地理的環境の特色から課題を見つけ、幸福、正義、公正の観点から考え表現している。 c: 地理的環境に対する関心を高め、課題を意欲的に追求し、生き方を考察しようとしている。	①授業態度、活動の姿勢 ②学習プリント、ワークシートの点検 ③活動成果物の出来ばえ ④小テスト、定期考査
前期 期末	第2章 地理的環境の特色	3 産業と生活文化 4 宗教・言語と生活文化	○	○	○	a: 世界各地の生活文化を理解し、その知識を身に付けている。また、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 世界各地の生活文化から課題を見つけ、幸福、正義、公正の観点から考え表現している。 c: 世界各地の生活文化に対する関心を高め、その違いを見つめ共生できるあり方を意欲的に追求し、考察しようとしている。	①授業態度、活動の姿勢 ②学習プリント、ワークシートの点検 ③活動成果物の出来ばえ ④小テスト、定期考査
	第3章 世界各地の生活文化	1 経済発展と生活文化の変化 2 宗教の多様性と生活文化 3 水の恵みと生活文化 4 イスラム社会の多様性と生活文化	○	○	○	a: 世界各地の生活文化を理解し、その知識を身に付けている。また、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 世界各地の生活文化から課題を見つけ、幸福、正義、公正の観点から考え表現している。 c: 世界各地の生活文化に対する関心を高め、その違いを見つめ共生できるあり方を意欲的に追求し、考察しようとしている。	①授業態度、活動の姿勢 ②学習プリント、ワークシートの点検 ③活動成果物の出来ばえ ④小テスト、定期考査

後期 中間	第3章 世界各地の生活文化	5 多様な気候と生活文化 6 経済統合による生活文化の変化 7 寒冷な気候と生活文化 8 グローバル化による生活文化の変化 9 土地の開発による生活文化の形成 10 植民と移民による生活文化の形成	○	○	○	a: 世界各地の生活文化を理解し、その知識を身に付けている。また、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 世界各地の生活文化から課題を見つけ、幸福、正義、公正の観点から考え表現している。 c: 世界各地の生活文化に対する関心を高め、その違いを見つめ共生できるあり方を意欲的に追求し、考察しようとしている。	①授業態度、活動の姿勢 ②学習プリント、ワークシートの点検 ③活動成果物の出来ばえ ④小テスト、定期考査
	第4章 地球的課題と国際協力	1 地球環境問題 2 資源・エネルギー問題	○	○	○	a: 地球的課題について、基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。また、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 地球的課題を捉えて、幸福、正義、公正の観点から解決策を構想・考察し表現している。 c: 地球的課題に対する関心を高め、意欲的に追求し、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方を考察しようとしている。	①授業態度、活動の姿勢 ②学習プリント、ワークシートの点検 ③活動成果物の出来ばえ ④小テスト、定期考査
後期 期末	第4章 地球的課題と国際協力	3 人口・食糧問題 4 居住・都市問題	○	○	○	a: 地球的課題について、基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。また、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 地球的課題を捉えて、幸福、正義、公正の観点から解決策を構想・考察し表現している。 c: 地球的課題に対する関心を高め、意欲的に追求し、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方を考察しようとしている。	①授業態度、活動の姿勢 ②学習プリント、ワークシートの点検 ③活動成果物の出来ばえ ④小テスト、定期考査
	第5章 生活圏の諸課題	1 日本の自然環境と防災 2 生活圏の諸課題と地域調査	○	○	○	a・b・c: 持続可能な社会の形成に対する関心を高め、課題を意欲的に探究し、人間の在り方生き方を考察しようとしている。	①授業態度、活動の姿勢 ②学習プリント、ワークシートの点検 ③活動成果物の出来ばえ ④小テスト、定期考査

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期 中間	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
	知識・技能	40	30	10
前期 期末	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
後期 中間	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
後期 期末	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
	知識・技能	40	30	10

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	地歴・公民	学年	1	教科書	明解 歴史総合 (帝国書院)
科目	歴史総合	クラス	A・B	副教材	新 歴史総合要点ノート (啓隆社)
		単位数	2	担当者	湊 祥之介

学習目標	①	近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	
	②	歴史に見られる課題を把握し、解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。	
	③	よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができる。	
学習方法		(1)単元に関する学習プリントを通して、必要とされる知識を予習・復習する。 (2)単元ごとに設定するテーマ学習のワークシートや活動自体を通して、情報活用の技能を習得したり、見方・考え方を磨いたりする。 (3)単元のポイントを説明したり、テーマ学習の取組を発表したりする言語活動を通して、傾聴力や伝達力を成長させる。 (4)授業での学びを、再現する機会に発揮したり、社会で役立てるために自分事として捉えたりする意識を深める。	
学習評価	評価の観点		当該科目の評価の趣旨
	a	知識・技能	歴史に関する諸資料を用いて、必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身に付いている。近現代の歴史の変化に関わる諸事象を理解している。
	b	思考・判断・表現	近現代史の事象の意味や意義、特色を、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、多角的・多面的に考察したり、歴史に見られる課題の解決・改善に向けて構想したりする力や、そのことを伝える力が養われている。
	c	主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史に関わる諸事象について、見受けられる課題を主体的に解決しようとする態度や、近現代史の学びから我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などが深められている。
	定期考査については、上記a.b.cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期 中間	歴史と私たち 歴史的特質と資料 近代化への問い 結びつく世界と 日本の開国	第1部 歴史の扉 第1章 歴史と私たち 第2章 歴史的特質と資料	○	○	○	a:現代社会の諸課題に対する関心を高め、意欲的に追求し、生き方と関連させようとしている。 b:現代社会の諸問題について課題を見つけ、幸福、正義、公正の観点から考え表現している。 c:現代社会の諸問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報についてまとめ、活用している。	①授業態度、活動の姿勢 ②学習プリント、ワークシートの点検 ③活動成果物の出来ばえ ④小テスト、定期考査
		第2部 近代化と私たち 第1章 江戸時代の日本と 結び付く世界 第2章 欧米諸国における 近代化	○	○	○		
前期 末	近代化の進展と 国家形成の過程 第一次世界大戦と 日本・世界の関係	第3章 近代化の進展と 国民国家形成 第4章 アジア諸国の動揺 と日本の開国 第5章 近代化が進む 日本と東アジア	○	○	○	a:近現代史における大衆化の事象について理解し、その知識を身に付けている。また、その有用な情報についてまとめ、活用している。 b:近現代の大衆化の諸事象から、現在とつながる課題を見つけ出し、幸福、正義、公正の観点から解決策・改善を構想し表現している。 c:近現代史における大衆化について関心を高め、意欲的に追求し、相互の関連や現在とのつながりを考察しようとしている。	①授業態度、活動の姿勢 ②学習プリント、ワークシートの点検 ③活動成果物の出来ばえ ④小テスト、定期考査

後期 中間	世界に広まった 大衆化の広まり 大衆と戦争の関わり 第二次世界大戦後の 国際秩序の変化	第3部 国際秩序の変化や 大衆化と私たち 第1章 第一次世界大戦と 日本の対応 第2章 国際協調と大衆 社会の広がり 第3章 日本の行方と 第二次世界大戦 第4章 再出発する世界と 日本	○	○	○	a:近現代史における大衆化の事象について理解し、その知識を身に付けている。また、その有用な情報についてまとめ、活用している。 b:近現代の大衆化の諸事象から、現在とつながる課題を見つけ出し、幸福、正義、公正の観点から解決策・改善を構想し表現している。 c:近現代史における大衆化について関心を高め、意欲的に追求し、相互の関連や現在とのつながりを考察しようとしている。	①授業態度、活動の姿勢 ②学習プリント、ワークシートの点検 ③活動成果物の出来ばえ ④小テスト、定期考査
		第4部 グローバル化と 私たち 第1章 冷戦で揺れる 世界と日本 第2章 多極化する世界 第3章 グローバル化の なかの世界と日本	○	○	○	a:近現代史におけるグローバル化について、基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。また、その有用な情報についてまとめ、活用している。 b:近現代史におけるグローバル化について課題を見つけ、幸福、正義、公正の観点から解決策・改善を構想し表現している。 c:近現代史におけるグローバル化について関心を高め、意欲的に追求し、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方を考察しようとしている。	①授業態度、活動の姿勢 ②学習プリント、ワークシートの点検 ③活動成果物の出来ばえ ④小テスト、定期考査

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期 中間	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
前期 末	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
後期 中間	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
後期 末	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	数学	学年	1年	教科書	最新 数学Ⅰ（数研出版）
科目	数学Ⅰ	クラス	A・B	副教材	改訂版3ROUND数学Ⅰ＋A(数研出版)
		単位数	3	担当者	五日市 純哉・佐々木 卓磨

学習目標	① 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象の数学化や解釈・表現・処理などの数学的な技能を身に付けることができる。 ② 適切な手法や表現を選択し、解決の過程や結果を考察し判断することができる。 ③ 数学の活用、数学的論拠に基づいた判断、問題解決における考察の評価・改善ができる創造性の基礎を身に付けることができる。		
学習方法	① 授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考えるグループワークやペアワークを行う。 ② 課題ノートを作成し、授業内容についての課題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ③ 授業終了時や次回授業開始時に、授業内容の復習及び課題内容の理解度を測るための評価テストを行う。 ④ 振り返りシートを用いて、学習内容の理解度と授業への取り組みを自己評価し、学習の質を向上させる。		
学習評価	評価の観点		当該科目の評価の趣旨
	a	知識及び技能	基本的な概念や原理・法則などを確実に理解し、問題の発見・解決の過程を自立的に遂行する技能を身に付けている。
	b	思考力、判断力、表現力等	数学を活用して事象を論理的に考察し、他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察しており、それを数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現している。
	c	学びに向かう力、人間性等	数学の良さを認識し、数学の学習への関心・意欲を持って数学的活動を行い、身に付けた知識及び技能や思考力を活用することができる。
	定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 数と式	多項式とその演算	○		○	a: 多項式の整理や展開・因数分解ができる。実数を理解し無理数の四則演算ができる。不等式の性質を理解し解くことができる。 b: 公式や置換法を活用することができる。分数の仕組みや平方根・不等式の性質を用いて考察や計算ができる。 c: 数の体系を拡張する過程や数の四則演算に関心を持ち、展開や因数分解・不等式を具体的な事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 (1)発言・話し合い (2)取り組み ②課題提出 (1)提出状況 (2)取り組み ③評価テスト ④定期考査
		式の展開	○		○		
		様々な因数分解	○		○		
		実数	○	○	○		
		根号を含む式の計算	○	○	○		
		不等式とその性質	○	○	○		
		1次不等式・連立不等式	○		○		
不等式の利用		○	○				
前期末	第3章 2次関数	関数とグラフ	○		○	a: 2次関数の式やグラフの特徴について理解し、最大値・最小値、方程式・不等式の解を求めることができる。 b: 身近な問題を関数の式に表すことができる。2次関数のグラフとx軸の共有点から、2次方程式・2次不等式の解が考察できる。 c: 2次関数とそのグラフについて関心を持ち、事象の考察に活用しようとしている。	①授業態度 ②課題提出 ③評価テスト ④定期考査
		2次関数のグラフ	○	○	○		
		2次関数の最大・最小	○	○	○		
		2次関数の決定	○	○	○		
		2次方程式	○		○		
		グラフとx軸の共有点	○	○	○		
		2次不等式と利用		○	○		

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力、判断力、表現力等	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力、判断力、表現力等	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力、判断力、表現力等	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力、判断力、表現力等	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	数学	学年	1年	教科書	最新 数学A（数研出版）
科目	数学A	クラス	A・B	副教材	改訂版3ROUND数学 I + A(数研出版)
		単位数	2	担当者	五日市 純哉・佐々木 卓磨

学習目標	① 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象の数学化や解釈・表現・処理などの数学的な技能を身に付けることができる。 ② 適切な手法や表現を選択し、解決の過程や結果を考察し判断することができる。 ③ 数学の活用、数学的論拠に基づいた判断、問題解決における考察の評価・改善ができる創造性の基礎を身に付けることができる。	
学習方法	① 授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考えるグループワークやペアワークを行う。 ② 課題ノートを作成し、授業内容についての課題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ③ 授業終了時や次回授業開始時に、授業内容の復習及び課題内容の理解度を測るための評価テストを行う。 ④ 振り返りシートを用いて、学習内容の理解度と授業への取り組みを自己評価し、学習の質を向上させる。	
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨
	a 知識及び技能	基本的な概念や原理・法則などを確実に理解し、問題の発見・解決の過程を自立的に遂行する技能を身に付けている。
	b 思考力、判断力、表現力等	数学を活用して事象を論理的に考察し、他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察しており、それを数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現している。
	c 学びに向かう力、人間性等	数学の良さを認識し、数学の学習への関心・意欲を持って数学的活動を行い、身に付けた知識及び技能や思考力などを活用することができる。
	定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。	

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 場合の数と確率	集合	○		○	a: 集合や順列・組合せの考え方を理解し適切に用いることで事象の確率を求められるようになる。確率の意味や基本的性質を理解し、様々な条件をもつ事象の確率を求めることができる。 b: ベン図や樹形図などを用いて場合の数や確率を考察できる。事象の構造や確率の性質に着目し、多方面に考察することができる。 c: 日常的な事象の起こりやすさや期待値を自立的に活用しようとしている。	①授業態度 (1)発言・話し合い (2)取り組み ②課題提出 (1)提出状況 (2)取り組み ③評価テスト ④定期考査
		集合の要素の個数	○	○	○		
		樹形図、和・積の法則		○	○		
		順列	○	○	○		
		円順列と重複順列	○	○	○		
		組合せ	○	○	○		
		確率の意味・計算	○	○	○		
		確率の基本的性質	○		○		
		和事象の確率	○		○		
		余事象の確率	○	○	○		
前期末	第2章 図形の性質	独立な試行の確率	○	○	○	a: 三角形や円・空間図形に関する基本的な性質について理解することができる。 b: 図形の構成要素間の関係や既習内容に着目し、図形の新たな性質を見出し、論理的に考察・証明することができる。 c: 日常における図形を作図や性質の理解を通して関心を持っている。様々な性質から定理・公式を自立的に導こうとしている。	①授業態度 ②課題提出 ③評価テスト ④定期考査
		反復試行の確率	○	○	○		
		条件付き確率	○		○		
		期待値	○		○		
		角の二等分線と比	○	○	○		
		外心、内心、重心	○	○	○		
後期中間	第2章 図形の性質	チェバ・メネラウス	○	○	○	a: 三角形や円・空間図形に関する基本的な性質について理解することができる。 b: 図形の構成要素間の関係や既習内容に着目し、図形の新たな性質を見出し、論理的に考察・証明することができる。 c: 日常における図形を作図や性質の理解を通して関心を持っている。様々な性質から定理・公式を自立的に導こうとしている。	①授業態度 ②課題提出 ③評価テスト ④定期考査
		円周角の定理	○		○		
		円に内接する四角形	○		○		
		円と接線	○	○	○		
		接線と弦の作る角	○	○	○		
		方べきの定理	○		○		
		2つの円		○	○		
		基本の作図	○		○		
		いろいろな作図		○	○		
		空間の直線と平面	○		○		
後期末	第3章 数学と人間の活動	多面体	○		○	a: 数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解している。 b: 問題解決の過程を振り返り、事象を数理的に考察したり統合的・発展的に考察したりすることができる。 c: 日常的な物事に数学的な要素を見出し、目的に応じて数学を活用する姿勢が見られる。	①授業態度 ②課題提出 ③評価テスト ④定期考査
		約数と倍数	○		○		
		1次不定方程式		○	○		
		記数法	○	○	○		
		座標の考え方	○		○		
		ゲームの中の数学		○	○		

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力、判断力、表現力等	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力、判断力、表現力等	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力、判断力、表現力等	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力、判断力、表現力等	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	理科	学年	1	教科書	物理基礎(数研出版)
科目	物理基礎	クラス	A・B	副教材	物理基礎 学習ノート(数研出版)
		単位数	2	担当者	佐々木 倫郎

学習目標	物理基礎の学習を通して、次のことができるようになる。 ○物体の運動と様々なエネルギーに関心を持つ。□ ○基本的概念や原理・法則を理解し、科学的な見方・考え方を身に付ける。□ ○目的意識を持って観察、実験などを行い、探求する能力と態度を身に付ける。	
学習方法	○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。□ ○ノートを作成し、授業内容についての課題や演習問題に取り組む。□ ○器械、器具などの基本操作を学ぶ。□ ○基礎・基本を習得する。□	
学習評価	評価の趣旨	
	a 知識及び技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	自然の事物・現象の中に問題を見観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。いざし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
	c 主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
	定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。	

れについて学習内容に応じて適切に配分しています。

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方	速度 加速度 落体の運動	○	○	○	a 等速直線運動の式およびx-t図、v-t図を理解できる。 b 速度の意味表し方、またこれらはグラフ上ではどのように示されるかを正しく理解し、物体の運動のようすを考えることができる。 c 物体の運動について関心や探究心を持ち、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取り組み ③課題への取り組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
	第2章 運動の法則	力とそのはたらき 力のつりあい 運動の法則 摩擦を受ける運動	○	○	○	a 物体にはたらく力について、理解できる。 b 運動方程式を用いて、物体の運動を説明できる。 c 物体にはたらく力と現象について関心や探究心を持ち、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取り組み ③課題への取り組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
前期末	第3章 仕事と 力学的エネルギー	仕事 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギー保存則	○	○	○	a 仕事の原理を仕事を計算して求め、比較をし理解できる。 b 力学的エネルギー保存則を用いて、物体の運動を定量的に考えることができる。 c 力学的エネルギー保存則について関心や探究心を持ち、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取り組み ③課題への取り組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー	熱と物質の状態 熱と仕事	○	○	○	a 温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などが正しく理解できる。 b 熱を伴う日常的な事象を、学習内容に照らし合わせて説明できる。 c ものの温まりやすさなど、熱にかかわる現象について関心や探究心を持ち、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取り組み ③課題への取り組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査

後期中間	第3編 波 第1章 波の性質	波と媒質の運動 波の伝わり方	○	○	○	a 波の発生原理や基本事項を理解できる。 b 波の伝わるようすを、グラフで表現することができる。 c 波による現象について関心や探究心を持ち、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取り組み ③課題への取り組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
	第2章 音	音の性質 発音体の振動と共振・共鳴	○	○	○	a 日常生活での体験を通して、音の波としての性質を理解できる。 b 音の特徴づける3つの要素について説明できる。 c 弦や気柱の振動について関心や探究心を持ち、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取り組み ③課題への取り組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
後期末	第4編 電気 第1章 物質と電気	電気の性質 電流と電気抵抗 電気とエネルギー	○	○	○	a オームの法則、抵抗の接続、抵抗率の基礎について理解できる。 b 電気を伴う日常的な事象を、オームの法則やジュールの法則などを用いて説明できる。 c 電気による現象について関心や探究心を持ち、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取り組み ③課題への取り組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
	第2章 磁場と交流	電流と磁場 交流と電磁波	○	○	○	a 電流が作る磁場と電流が磁場から受ける力、交流と電磁波について理解できる。 b 電流と磁場の関係について説明できる。 c 電流と磁場による現象について関心や探究心を持ち、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取り組み ③課題への取り組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用	エネルギーの移り変わり エネルギー資源と発電 物理学が拓く世界	○	○	○	a エネルギーにはどのような種類があるか、また、身近なさまざまな事象でどのようなエネルギー変換がなされているかを理解できる。 b ある事象に対して、どのようなエネルギー変換が行われているかを考察し、説明することができる。 c 再生可能エネルギーについて関心や探究心を持ち、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取り組み ③課題への取り組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	保健体育	学年	1	教科書	現代高等保健体育(大修館)
科目	体育	クラス	A・B	副教材	Active Sports 2025 総合版
		単位数	3	担当者	田中 諒・狐崎 亜実

学習目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育む。				
学習方法	・運動の合理的、計画的な実践を通して、知識、技能を高める。 ・ペアやチームでの活動を通して、仲間と協力や交流をする。 ・競技のルール、安全面についての理解を深める。				
学習評価	評価の観点		当該科目の評価の趣旨		
	a	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通し、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたり運動を継続し、運動の多様性や体力の必要性について理解し、技能を身につける。		
	b	思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見や解決し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。		
	c	主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公平に取り組む、互いに協力、自己の背金を果たす、参画する、1人1人の違いを大切にし、意欲を育むとともに、健康・安全を確保する。		

学期	点それぞれについて学習	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	A 体づくり運動	体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画 集団行動	○	○	○	a: 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則を理解している。 b: 自己や仲間の考えたことを他者に伝えられる。 c: 体づくり運動に自主的に取り組んでいる。	観察 記録
	E 球技 ア:ゴール型	バスケットボール	○	○	○	a: 動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 b: 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 c: バスケットボールに自主的に取り組もうとしている。	観察 スキルテスト 学習カード 筆記テスト
	E 球技 イ:ネット型	バレーボール	○	○	○	a: ボール操作や用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防ができる。 b: よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 c: バレーボールに自主的に取り組もうとしている。	
前期末	C 陸上競技	短距離 走り幅跳び	○	○	○	a: 体力の高め方を理解し、各種目の技術を身につけている。 b: 課題解決の過程を踏まえ、自己の仲間と課題を見直している。 c: 自主的に取り組んでいる。	観察、スキルテスト 学習カード
	H 体育理論 (1)スポーツの発祥と発展	1. スポーツの始まりと変遷 2. 文化としてのスポーツ	○	○	○	a: スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解できる。 b: よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 c: 学習に主体的に取り組もうとしている。	観察 筆記テスト ノート
後期中間	G ダンス ウ:現代的なリズム のダンス	現代的なダンス グループ学習	○	○	○	a: リズムの特徴を捉え、変化やまとまりを付け、リズムに乗り全身で踊ることができる。 b: 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 c: ダンスに自主的、楽しみながら取り組んでいる。	観察 学習カード
	E 球技 ア:ゴール型 ウ:ベース型	サッカー、ソフトボール	○	○	○	a: 競技のルールを理解している。 b: よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、チームに伝えている。 c: 球技に自主的に取り組んでいる。	観察 スキルテスト 学習カード
	H 体育理論 (2)スポーツの発祥と発展	3. オリンピックとパラリンピックの意義 4. スポーツが経済に及ぼす効果	○	○	○	a: オリンピックとパラリンピックの意義について理解することができる。 b: スポーツに関わる業種について思考し判断するとともに、他者に伝えている。 c: 学習に主体的に取り組もうとしている。	観察 筆記テスト ノート
後期末	E 球技 イ:ネット型	卓球 バドミントン	○	○	○	a: 用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防ができる。 b: よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 c: バドミントンや卓球に自主的に取り組もうとしている。	観察 スキルテスト 学習カード
	H 体育理論 (3)スポーツの発祥と発展	5. スポーツの高演説とドーピング 6. スポーツと環境	○	○	○	a: スポーツにおけるドーピングについて具体的に説明ができ理解している。 b: よりよい解決に向けて思考し判断することができる。 c: 学習に主体的に取り組もうとしている。	観察 筆記テスト ノート

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
前期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	保健体育	学年	1	教科書	現代高等保健体育(大修館書店)
科目	保健	クラス	A・B	副教材	現代高等保健体育ノート(大修館書店)
		単位数	1	担当者	狐崎 亜実

学習目標					
学習方法	○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ○ノートや副教材等を利用し、授業内容についての理解を深め、課題や演習問題に取り組む。				
学習評価	評価の観点		当該科目の評価の趣旨		
	a 知識・技能	現代社会、安全な社会生活について理解している。			
	b 思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、計画的な解決をに向けて思考し判断し、目的状況に応じて他者に伝えることができる。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	現代社会と健康、社会生活と健康について、生涯を通じて健康の保持増進やそれを支える環境を考え、授業で得た知識を元に健康的な生活を送るための選択や活用ができる。			
	定期考査については、上記a.b.cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。				

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	1. 現代社会と健康	1. 健康の考え方と成り立ち 2. 私たちの健康のすがた 3. 生活習慣病の予防と回復 4. がんの原因と予防 5. がんの治療と回復 6. 運動と健康 7. 食事と健康 8. 休養・睡眠と健康	○	○	○	a: 健康の考え方と成り立ちについて、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 b: 健康に関する意志決定・行動選択の重要性、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりについて、課題を見つたり、整理したりするなどして、それらを説明している。 c: 授業で示された学習内容を元に将来のことを考え、健康的な生活を送るために、実践することできる(ロールプレイング)。	①授業態度 ②課題提出
前期末		9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康 11. 薬物乱用と健康 12. 精神疾患の特徴 13. 精神疾患の予防 14. 精神疾患からの回復	○	○	○	a: 喫煙・飲酒の対策について、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 b: 薬物乱用が心身の健康や社会に与える影響、薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策について、課題を見つたり、整理したりするなどして、それらを説明している。 c: 精神疾患の特徴を理解し、各々のストレスを感じたときの様々な対処方法見つけることができる。	①授業態度 ②課題提出 ③定期考査

後期中間	1. 現代社会と健康	15. 現代の感染症 16. 感染症の予防 17. 性感染症・エイズの予防 18. 健康に関する意志決定・行動選択 19. 健康に関する環境づくり	○	○	○	a: さまざまな感染症とその広がり方、再興感染症と新興感染症、社会と個人で取り組む感染症予防対策について、基礎的な事項を理解し、資料を読みむなど学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 b: 健康について、事象や情報などを整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見し、説明することができる。 c: 授業で示された学習内容を元に健康的な生活のための意思決定・行動選択ができる。	①授業態度 ②課題提出
後期末	2. 安全な社会生活	01. 交通事故の現状と発生要因 02. 安全な社会の形式 03. 交通における安全 04. 応急手当の意義とその基本 05. 日常的な応急手当 06. 心肺蘇生法	○	○	○	a: 運転者に必要な資質と責任、安全な交通社会づくりのための対策について、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 b: 怪我、熱中症の応急手当の手順・方法について理解し、授業で示された学習内容を元に説明することができる。 c: 胸骨圧迫、人工呼吸、AEDによる除細動の原理と意義、心肺蘇生法の各手順のポイントについて、基礎的な事項を理解し、救命講習会で実践することができる。	①授業態度 ②課題提出 ③定期考査

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期末	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	芸術	学年	1学年	教科書	Mousa 1(教育芸術社)
科目	音楽Ⅰ	クラス	音楽選択者	副教材	音楽の鑑賞資料と基礎学習(教育芸術社)
		単位数	2単位	担当者	細田 富士子

学習目標	○生涯にわたって音楽を愛好するために必要な、基本的音楽能力を身につけることができる。	
	○創造的な音楽表現と鑑賞の能力を身につけることができる。	
	○幅広い音楽文化に対して興味関心を持ち、それらの良さを味わいながら理解することができる。	
	○グループ活動やアンサンブル活動を通して、曲の解釈や好みの違いに気づき、互いの意見を尊重しながら理解を深めることができる。	
学習方法	○目標を提示し、授業を展開する。	
	○基本的な知識・技能の学習を繰り返し行い、活用できる能力を身につける。	
学習評価	○創造的な音楽表現と鑑賞の能力を身につけるために、主体的に考え活動する。	
	○我が国や郷土の伝統音楽を含む魅力的な教材から幅広い音楽文化の良さを味わうことができる。	
	○単元毎に実技試験や筆記試験に臨み、知識・技能の定着を実感する。	
	評価の観点	
	当該科目の評価の趣旨	
a 知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	
	b 思考・判断・表現	
	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	
c 主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
	上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。	

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	歌唱の基本を身につける著作権を守ろう	音楽の要素を知覚するとともに、発声の基本を身に付け、歌詞内容に沿った表現をする。	○	○	○	a: 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。 b: 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声を身に付ける。 c: 音色、旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。	活動の様子 提出物 実技試験 小テスト
	ボディパーカッション 創作(作曲) 楽典	各楽器の特徴と奏法を知り、パートの重なりを感じながら演奏する。	○	○	○	a: 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 b: 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 c: リズム、強弱を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。	
前期末	合唱	各声部の役割と声の重なりを感じ取り、楽曲を構造的に捉えて表現する。	○	○	○	a: 音色、旋律、構成を知覚し、音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。 b: 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、歌唱で表している。 c: 音色、旋律、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。	活動の様子 提出物 実技試験 小テスト
	器楽アンサンブル	各楽器の特徴と奏法を知り、パートの重なりを感じながら演奏する。	○	○	○	a: アンサンブル活動に意欲的・協力的に取り組んでいる。 b: 楽曲全体をとらえ、自分のパートの音色・奏法・表現方法を工夫している。 c: 各楽器の奏法を習得し、演奏に必要な技能を習得している。	

後期中間	和楽器 日本音楽	楽器の特徴と奏法を知り、パートの重なりを感じながら演奏する。	○	○	○	a: アンサンブル活動に意欲的・協力的に取り組んでいる。 b: 楽曲全体をとらえ、自分のパートの音色・奏法・表現方法を工夫している。 c: 各楽器の奏法を習得し、演奏に必要な技能を習得している。	活動の様子 提出物 実技試験 小テスト
	世界の諸民族の音楽	世界の諸民族の音楽に触れ、その特徴を味わう。	○	○	○	a: さまざまな民族の音楽に関心を持って、主体的に鑑賞や演奏に取り組んでいる。 b: さまざまな民族の音楽の特徴を捉えて鑑賞する。 c: 文化的背景を捉えながら鑑賞する。	
	イタリア語の歌曲	各イタリア語の歌曲の特徴と声の魅力を感じ取って歌う。	○	○	○	a: イタリア語の歌曲の歌唱や鑑賞活動に意欲的に取り組んでいる。 b: 楽曲の歌詞内容を理解し、表現を工夫している。 c: 強弱・音色・速度を変化させて楽曲の雰囲気や合った表現ができる。	
	ドイツリート	ドイツ歌曲の特徴を味わいながら歌い、表現の多様さを感じ取る。	○	○	○	a: ドイツリートの歌唱や鑑賞活動に意欲的に取り組んでいる。 b: ドイツリートおよび楽曲の形式を理解し、表現を工夫している。 c: 音色・強弱・速度・ドイツ語の取り扱いに配慮し、創造的な歌唱ができる。	
後期末	舞台芸術① (ミュージカル) 創作(作詞)	ミュージカルの特徴を捉え、味わう。	○	○	○	a: 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 b: 音色、形式を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えとともに、音楽の良さや美しさを自ら味わって聴いている。 c: 音色、形式に関心をもち、主体的・協動的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	活動の様子 提出物 実技試験 小テスト
	舞台芸術② (オペラ)	オペラ固有の特徴を捉え、味わう。	○	○	○	a: 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 b: 音色、リズム、旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えとともに、音楽の良さや美しさを自ら味わって聴いている。 c: 音色、リズム、旋律に関心をもち、主体的・協動的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考查	考查以外
前期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
前期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	芸術	学年	1学年	教科書	書Ⅰ・書Ⅱプライマリーブック (教育図書)
科目	書道Ⅰ	クラス	書道選択者	副教材	書学習の資料 (岩手県高教研書道部会)
		単位数	2単位	担当者	武田由起子

学習目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することができる。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。 (2) 書の下さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美感を味わい捉えたりすることができる。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組む、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書をを通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うことができる。	
学習方法	○授業において書と向き合い、作品制作に取り組む。 ○長期休暇において、課題に取り組む。 ○単元毎に実技試験(作品提出)に臨み、知識・技術の定着を実感する。 ※生徒の実情に合わせて全体・個別指導を組み合わせ、適切な課題を提示する。	
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨
	a 知識・技能	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。
	b 思考・判断・表現	・書の下さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美感を味わい捉えたりしている。
	c 主体的に学習に取り組む態度	・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
	上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。	

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	書写で学んできたこと	書写で学んできたこと コラム:用具・用材の製造方法 用具・用材 姿勢・執筆法	○	○	○	a: 表現 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ・目的や用途に即した効果的な表現、楷書と仮名や行書と仮名の調和した線質による表現を身に付けている。 b: 中学校書写で学んだ漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した効果的な表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫している。 c: ・自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	授業態度 課題提出
	漢字の書	漢字の書の成立と変遷 古典に基づく学習	○	○	○	a: 鑑賞 ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。 b: 鑑賞 ・漢字の書の古典の価値とその根拠について考え、書の下さや美しさを味わって捉えている。 c: 鑑賞 ・書の下さや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。	
前期末	楷書	楷書の特徴 表現を比べよう 「孔子廟堂碑」 「九成宮醴泉銘」 「雁塔聖教序」 「顔氏家廟碑」 「牛軋造像記」	○	○	○	a: 表現 ・楷書、行書、草書、隷書、篆書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 鑑賞 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 b: 楷書、行書、草書、隷書、篆書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、楷書の古典の線質、字形や構成を生かした表現を身に付けている。	授業態度 課題提出
	行書	行書の特徴 「集王聖教序」 「争座位文稿」 「蘭亭序」 「風信帖」	○	○	○	c: 表現 ・楷書、行書、草書、隷書、篆書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫している。 鑑賞 ・楷書、行書、草書、隷書、篆書の古典の価値とその根拠について考え、書の下さや美しさを味わって捉えている。	
	草書 隷書 篆書	「真草千字文」 「曹全碑」 「泰山刻石」					

後期中間	仮名の書	「蓬萊切」 「高野切古今和歌集(第三種)」	○	○	○	a: 表現 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。 鑑賞 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 ・目的や用途に即した効果的な表現や、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けている。 b: 表現 ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。 鑑賞 ・創造された作品の価値とその根拠について考え、書の下さや美しさを味わって捉えている。	授業態度 課題提出
	漢字仮名交じりの書	創作 ・言葉と書を調和させよう 鑑賞 ・書のみや風趣を味わおう				c: 表現 ・自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 鑑賞 ・漢字仮名交じりの書の下さや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。	
後期末	生活に広げる	・生活に広げる	○	○	○	a: 鑑賞 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 b: 表現 ・生活や社会における書の効用について理解している。 c: 表現 ・自身の表現の意図に基づく表現、書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 鑑賞 ・書の下さや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。	授業態度 課題提出
	篆刻と刻字	篆刻と落款 創作 ・篆刻のみや風趣を味わおう 創作 ・好きな言葉を彫ろう	○	○	○	a: 鑑賞 ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 c: 表現 ・自身の表現の意図に基づく表現、篆刻・刻字の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 鑑賞 ・篆刻・刻字の下さや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
前期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40

令和7年度 年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	英語	学年	1	教科書	Power On English Communication I (東京書籍)
科目	英語コミュニケーション I	クラス	A・B	副教材	Power On English Communication I WORKBOOK(東京書籍)・クラウン チャンク で英単語Standard(三省堂)
		単位数	3	担当者	近藤 孝・井形 優・北村 ちひろ

学習目標	コミュニケーション英語Ⅰの授業を通して次のことができるようにする。	
	①必要な情報を聞いたり、読んだりして、相手の意図を把握したり、概要、要点を理解することができる。	
	②基本的な語句や文を用いて、情報や考え、意見を表現したり、伝えあったりすることができる。	
	③グループワーク・ペアワーク等を通して相手のことを思いやった英語発信をすることができる。	
学習方法	④日々の単語学習やペア・グループでのやりとり、発表などの活動に積極的に取り組むことができる。	
	①毎時のゴールに向かい見通しをもって学習に取り組む。	
	②ゴール達成のために必要な知識・技能や理解・表現力などを養うために4技能を統合して学習する。	
	③積極的に英語を用いてペア・グループでの言語活動に取り組む。	
学習評価	④日々の単語学習やワークブックを用いての授業内容の復習を徹底する。	
	評価の観点	当該科目の評価の趣旨
	a 知識・技能	外国語の語彙や表現を理解し、活用できる技能を身に付けている。
	b 思考・判断・表現	外国語で情報や考え、相手の意図を理解したり、適切に表現したり伝え合ったりしている。
	c 主体的に学習に取り組む態度	外国語での言語活動を積極的に行い、コミュニケーションを図ろうとしている。
	定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。	

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	L.1 Japan's New Tourism	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 動詞の現在形・過去形、進行形、助動詞＋動詞の原形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 日本の観光について、情報や意図、概要を理解したり、自分の住んでいる地域の魅力について、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: 日本の観光について、対話やスピーチを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
	L.2 Light from Creatures	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・プレゼンテーション	○	○	○	a: 受け身、現在完了形、現在完了進行形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 光る生き物について、情報や意図、概要を理解したり、ポスター原稿を作成したり話したりして伝えている。 c: 光る生き物について、対話やプレゼンテーションを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
	L.3 Routes to the Top	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・プレゼンテーション	○	○	○	a: 動名詞、不定詞、S＋V＋O[that節]を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: スポーツ選手について、情報や意図、概要を理解したり、自分の好きなスポーツ選手について、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: スポーツ選手について、対話やプレゼンテーションを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
	L.4 Left to Right, Right?	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・ディベート	○	○	○	a: 後置修飾の現在分詞、後置修飾の過去分詞、比較級・最上級を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 日本の漫画の形式について、情報や意図、概要を理解したり、日本の漫画の将来について、対立する意見を比較して自分の意見を書いたり話したりして伝えている。 c: 日本の漫画の形式について、対話やディベートを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
前期末	L.5 Banana Paper	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・プレゼンテーション	○	○	○	a: 関係代名詞(主格)、関係代名詞(目的格)、S＋seem＋to不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: バナナペーパーの販売促進に関する発表について、情報や意図、概要を理解したり、販売促進の案について、自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: バナナペーパーの販売促進について、対話やプレゼンテーションを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト

後期中間	L.6 Patterns in Human Behavior	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・ディスカッション	○	○	○	a: It＋be動詞＋形容詞＋that節、S＋V[be動詞以外＋C]、S＋V＋O＋C[形容詞]を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 人間の行動に関する心理学実験の手順や結果について、情報や意図、概要を理解したり、関連データについて、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: 人間の行動に関する心理学実験の手順や結果について、対話やディスカッションを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
	L.7 No Plastic or No Future	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 関係副詞where、関係副詞when、関係代名詞whatを用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: プラスチックごみによる海洋汚染について、情報や意図、概要を理解したり、社会問題と解決策について、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: プラスチックごみによる海洋汚染について、対話やスピーチを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
	L.8 Oh My Cod!	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・プレゼンテーション	○	○	○	a: 現在分詞の分詞構文、関係代名詞の非制限用法、過去完了形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 好きな食べ物について、情報や意図、概要を理解したり、その背景などを話したり書いたりして伝えている。 c: 好きな食べ物について、対話やプレゼンテーションを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
	L.9 Is E-sports a Real Sport?	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・プレゼンテーション	○	○	○	a: S＋V[知覚]＋O＋C[現在分詞、原形不定詞]、S＋V[使役]＋O＋C[原形不定詞]、S＋V＋O ₁ ＋O ₂ [if などの節]を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: eスポーツの利点について、情報や意図、概要を理解したり、クラブ設立の提案について、自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: eスポーツの利点について、対話やプレゼンテーションを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
後期末	L.10 Being Different Is Beautiful	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・プレゼンテーション	○	○	○	a: wish＋仮定法過去の節、仮定法過去のas if節、仮定法過去のif節を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 写真家ヨシダナギさんについて、情報や意図、概要を理解したり、自分の尊敬する人物について、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: 写真家ヨシダナギさんについて、対話やプレゼンテーションを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
		30	15	15
前期末	知識・技能	40	20	20
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
		30	20	20
後期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
		30	20	20
後期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
		30	20	20

令和7年度 年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校						
教科	外国語	学年	1	教科書	Amity English Logic and Expression 1 (開講型)	
科目	論理・表現 I	クラス	A・B(習熟度別授業による2分割)	副教材	ワークブック	
単位数		2	担当者	近藤 幸・北村 ちひろ		
学習目標	外国語を通して言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりするコミュニケーション能力を身につける。1年生においては、教科書をベースとしながら表現活動の基本を身につけ、グループでの発表やディスカッション等につなげられるようにする。					
学習評価	平易な単語や文を暗唱する。 教科書の文を参考に、身の回りの事や自分の意見を話したり書いたりする。 図解を書き、手紙や依頼状によって基本文法を身につける。					
学習評価	評価の観点	単元科目の評価の留意				
		a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度		
定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。						
学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点		単元の評価規準	評価方法
前期 中間	自己紹介をしよう	音読	☐	☐	a 現在時刻を使った文の理解を基に、好きなことやものについて紹介する技能を身につけている。	音読
		書き取り	☐	☐	b 好きなことやものについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えたりする。	発話の積極性
	昨日何をした?	現在形	☐	☐	c 好きなことやものについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手に積極的に伝えようとしている。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	d 過去時刻を使った文の理解を基に、過去の出来事について紹介する技能を身につけている。	発話の積極性
	今、何してる?	音読	☐	☐	e 過去の出来事について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えたりする。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	f 過去の出来事について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手に積極的に伝えようとしている。	発話の積極性
	花粉症ってつらい?	進行形	☐	☐	g 進行形を使った文の理解を基に、今していることや過去のある時点にしていたことについて対照する技能を身につけている。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	h 今していることや過去のある時点にしていたことについて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えたりする。	発話の積極性
	花粉症ってつらい?	音読	☐	☐	i 今していることや過去のある時点にしていたことについて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手に積極的に伝えようとしている。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	j 未来を表す表現を使った文の理解を基に、時間がたつと変化するものや身体ものの予定などについて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手に積極的に伝えようとしている。	発話の積極性
前期 末	手紙してくれる?	音読	☐	☐	k 時間がつと変化するものや身体ものの予定などについて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手に積極的に伝えようとしている。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	l 時間がつと変化するものや身体ものの予定などについて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手に積極的に伝えようとしている。	発話の積極性
	法華寺に行こう	助動詞①	☐	☐	m 助動詞(can, may)を使った文の理解を基に、尋ねなければならぬルールについて発する技能を身につけている。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	n 尋ねなければならぬルールについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えたりする。	発話の積極性
	漢字を学ぶ秘訣	助動詞②	☐	☐	o 尋ねなければならぬルールについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手に積極的に伝えようとしている。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	p 現在完了(完了・結果・経験)を使った文の理解を基に、過去に予定したこととその結果、これまで経験したこととを伝える技能を身につけている。	発話の積極性
	秋葉原ってすごい	音読	☐	☐	q 過去に予定したこととその結果、これまで経験したことについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えたりする。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	r 過去に予定したこととその結果、これまで経験したことについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手に積極的に伝えようとしている。	発話の積極性
	お手製のパン	現在完了形②	☐	☐	s 現在完了(完了・結果・経験)を使った文の理解を基に、これまで経験してきたことやその様子について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えたりする。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	t 現在完了(完了・結果・経験)を使った文の理解を基に、これまで経験してきたことやその様子について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手に積極的に伝えようとしている。	発話の積極性
後期 中間	大きなお弁当	音読	☐	☐	u 受動形を使った文の理解を基に、好きな本や作品について紹介する技能を身につけている。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	v 好きな本や作品について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えたりする。	発話の積極性
	アイドル最高!	音読	☐	☐	w 好きな本や作品について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えたりする。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	x 好きな本や作品について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手に積極的に伝えようとしている。	発話の積極性
	覚えあれば...	熟名詞	☐	☐	y 比較級や最高級を使った文の理解を基に、自分や家族について紹介する技能を身につけている。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	z 比較級や最高級を使った文の理解を基に、自分や家族について紹介する技能を身につけている。	発話の積極性
	何に使うもの?	不定詞①	☐	☐	aa 不定詞(目的・手段・結果・目的)を使った文の理解を基に、自分の友だちや家族、持ち物について、情報とあわせて発表することができる。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	ab 自分の友だちや家族、持ち物について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えたりする。	発話の積極性
	あの子は誰?	不定詞②	☐	☐	ac 自分の友だちや家族、持ち物について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手に積極的に伝えようとしている。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	ad 現在分詞や過去分詞を使った文の理解を基に、自分の友だちや家族、持ち物について、情報とあわせて発表することができる。	発話の積極性
後期 末	工場見学に行こう	音読	☐	☐	ae 自分の友だちや家族、持ち物について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えたりする。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	af 自分の友だちや家族、持ち物について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手に積極的に伝えようとしている。	発話の積極性
	あの日思い出	関係代名詞①	☐	☐	ag 関係代名詞(関係・目的・手段・結果・目的)を使った文の理解を基に、自分の友だちや家族、持ち物について、情報とあわせて発表することができる。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	ah 関係代名詞(関係・目的・手段・結果・目的)を使った文の理解を基に、自分の友だちや家族、持ち物について、情報とあわせて発表することができる。	発話の積極性
	おすすめの旅行先	音読	☐	☐	ai 関係代名詞(関係・目的・手段・結果・目的)を使った文の理解を基に、自分の友だちや家族、持ち物について、情報とあわせて発表することができる。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	aj 関係代名詞(関係・目的・手段・結果・目的)を使った文の理解を基に、自分の友だちや家族、持ち物について、情報とあわせて発表することができる。	発話の積極性
	もしも私が...	関係代名詞②	☐	☐	ak 関係代名詞(関係・目的・手段・結果・目的)を使った文の理解を基に、自分の友だちや家族、持ち物について、情報とあわせて発表することができる。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	al 関係代名詞(関係・目的・手段・結果・目的)を使った文の理解を基に、自分の友だちや家族、持ち物について、情報とあわせて発表することができる。	発話の積極性
	おでかけするなら?	関係代名詞③	☐	☐	am 関係代名詞(関係・目的・手段・結果・目的)を使った文の理解を基に、自分の友だちや家族、持ち物について、情報とあわせて発表することができる。	授業中の発言
		書き取り	☐	☐	an 関係代名詞(関係・目的・手段・結果・目的)を使った文の理解を基に、自分の友だちや家族、持ち物について、情報とあわせて発表することができる。	発話の積極性

評価の取り組み		評価の観点			
		重み付け	調査	学習資料	
前期中間	知識・技能	35	25	10	
	思考・判断・表現	35	25	10	
前期末	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30	
	知識・技能	35	25	10	
後期中間	主体的に学習に取り組む態度	35	25	10	
	知識・技能	35	25	10	
後期末	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30	
	知識・技能	35	25	10	
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30	
	知識・技能	35	25	10	

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	家庭	学年	1	教科書	東京書籍 家庭基礎
科目	家庭基礎	クラス	A・B	副教材	東京書籍 学習ノート
		単位数	2	担当者	釜石知佳

学習目標	(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識や技能を身につける (2)家庭・地域・社会生活の中から問題を見つけ、課題設定・解決策を考え、実践を評価・改善しながら考察したことを根拠に基づき論理的に表現する。(ホームプロジェクト) (3)地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。(学校家庭クラブ活動)		
学習方法	1 最終的な目標を意識し、自分の現在や将来の家庭生活に関わる基本的な知識と技術を習得する。 2 グループ学習や実習では実践的な学習を通して自分以外の意見を受け入れ、協調性を身につけながら、積極的に理解を深める。 3 資料や教材を活用し、知識だけでなく、生活と結びつけて考えをまとめ、伝わりやすい発表とはどのようなものか試行錯誤し表現する。		
学習評価	評価の観点		当該科目の評価の趣旨
	a 知識・技能	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、課題や解決策を構想し、論理的に実践するための知識と技術を身に付けている。	
	b 思考・判断・表現	家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。 自ら課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
	c 主体的に学習に取り組む態度	家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	
	定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価基準	評価方法
前期 中間	1 家庭科の学び方 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	家庭科の学び方 生活に生かす。 自分の意見を文章にまとめる	○	○	○	a 自分を客観的に振り返り、生活から課題を見つけホームプロジェクトに結びつけようとする。また、活用できる資源にも着目できる。	授業プリント ワークノート
	3 第1章 生涯を見通す	1 人生を展望する				b ライフステージの特徴と課題を理解し参考になる資料収集ができる。	実習(保育)
	4 生涯を見通す	2 目標を持って生きる				c 各ライフステージの特徴と課題に関心をもち、学習に取り組んでいる	授業観察
	5 第2章 人生をつくる	1 人生をつくる	○	○	○	a 現代の家族の特徴や機能、婚姻・夫婦・親子等に関する法律の基本的な趣旨を理解している。青年期の課題について具体的に考えようとしている。	期末考査
	6 人生をつくる	2 家族・家庭を見つめる				b 家庭や地域での自分の役割を見つけ、具体的な行動を計画できる。	
	7 人生をつくる	3 これからの家庭生活と社会				c 自分を見つめ人生や進路を考える。	
	8 人生をつくる						
	9 人生をつくる						
	10 第3章 子どもと共に育つ	1 命を育む	○	○	○	a ・子どもの発達や、健康・快適・安全に育つ環境を整えられるよう、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。	
	11 子どもと共に育つ	2 子どもが育つ力を知る				b ・社会全体で子育てを支えるため、現代の子育て環境の変化や課題について理解し、子どもが健やかに育つ社会をどう実現すればよいが、考えようとする。	
	12 子どもと共に育つ	3 子どもと関わる				c ・指定された折り紙が折れている。物語が幼児に伝わるよう談める。	
	13 子どもと共に育つ	4 触れ合いを想定し学ぶ					
	14 子どもと共に育つ	5 これからの保育環境					
前期 期末	15 第7章 衣生活をつくる	1 被服の役割を考える	○	○	○	a 汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した洗濯や保管方法を習得する。機能的で美しい基礎縫いができる。	実習(被服)
	16 衣生活をつくる	2 被服を入手する				b 被服製作に適した方法で、洗濯や保管、繰り返し方法が実践できる。	授業プリント ワークノート
	17 衣生活をつくる	3 被服を管理する				c 被服管理や製作に関心を持って取り組もうとしている。	授業観察 確認テスト
	18 衣生活をつくる	4 衣生活の文化と知恵					
	19 衣生活をつくる	5 これからの衣生活					
	20 衣生活をつくる	6 基礎縫い・被服製作					
	21 衣生活をつくる						
	22 衣生活をつくる						
	23 ホームプロジェクト・発表	1 課題設定	○	○	○	a 課題意識を持ち、必要な情報収集と計画、実践している	ホームプロジェクト
	24 ホームプロジェクト・発表	2 計画				b 生活上の課題を見だし、その解決を目指して科学的に探求し、まとめた内容を発表できる。	パワーポイント資料 (記録冊子)
	25 ホームプロジェクト・発表	3 プレゼン準備				c 意欲的に学習活動に取り組む、計画に沿って実践することができる。	
	26 ホームプロジェクト・発表	4 発表					
	27 ホームプロジェクト・発表						
後期 中間	29 第6章 食生活をつくる	1 食生活の課題	○	○	○	a 各ライフステージの食生活の課題、食事摂取量などについて理解している。調理実習を通して、自分の食生活について考え、工夫している。	授業プリント 実習(食物)
	30 食生活をつくる	2 食事と栄養・食品				b 食生活を振り返り、現代の食生活の傾向と問題点について考え、まとめた発表したりしている。	ワークノート
	31 食生活をつくる	3 食生活の選択と安全				c 自分や家族の食生活について感心を持ち、意欲的に実習等に取り組もうとしている。	授業観察 期末考査
	32 食生活をつくる	4 生涯の健康を見通した食事計画					
	33 食生活をつくる	5 調理の基礎					
	34 食生活をつくる	6 食生活の文化と知恵					
	35 食生活をつくる	7 これからの食生活					
	36 第4章 高齢社会と共に生きる	1 超高齢・大衆長寿社会の到来	○	○	○	a 高齢者の身体的特徴と心理的特徴について理解している。高齢社会の現状と課題を理解している。	
	37 高齢社会と共に生きる	2 高齢者の心身の特徴				b 高齢社会の現状や課題について考え、まとめた発表したりしている。	
	38 高齢社会と共に生きる	3 これからの超高齢社会				c 生涯を見通して高齢者の生活について考えようとしている。	
	39 高齢社会と共に生きる	4 私たちの生活と福祉					
	40 高齢社会と共に生きる	5 社会保険の考え方					
後期 期末	41 第5章 共に生き、共に変える	1 私たちの生活と福祉	○	○	○	a 家族構成やライフステージの変化と住環境の関係、衛生的な住まいの維持管理について理解している。	授業プリント
	42 共に生き、共に変える	2 社会保険の考え方				b ライフステージに応じた、住居についてまとめたり、発表したりしている。	ワークノート
	43 共に生き、共に変える	3 共に生きる				c 家庭生活の場としての住居の条件について生涯を見通して考えようとしている。	授業観察 期末考査
	44 共に生き、共に変える	4 これからの住生活					
	45 共に生き、共に変える	5 情報の収集・比較と意思決定				a 経済社会と家計との関係を理解する。消費行動における意思決定の重要性を理解している。	
	46 共に生き、共に変える	6 購入・支払いのルールと方法	○	○	○	b 購入の際の主体的な意思決定について考え、まとめた発表したりしている。	
	47 共に生き、共に変える	7 消費者の権利と責任				c 消費行動における意思決定の過程について具体的に考えようとしている。	
	48 共に生き、共に変える	8 生涯の経済生活を見通す					
	49 共に生き、共に変える	9 これからの経済生活					
	50 共に生き、共に変える						
	51 共に生き、共に変える						
	52 共に生き、共に変える						
	53 共に生き、共に変える						
	54 共に生き、共に変える						
	55 共に生き、共に変える						
	56 共に生き、共に変える						
	57 共に生き、共に変える						
	58 第11章 これからの生活を創造する	今までの学習を踏まえ、生活の生活設計に必要な要素や資質について。	○	○	○	a 生涯を見通した生活設計の重要性を理解している。	
	59 これからの生活を創造する					b 自己のライフスタイルの実現を目指して、生活設計を考えまとめることができる。	
	60 これからの生活を創造する					c 自己のライフスタイルや、生活設計について考えようとしている。	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期 中間	知識・技能	50	20	30
	思考・判断・表現	20	10	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
	知識・技能	40	0	40
前期 期末	思考・判断・表現	20	0	20
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
	知識・技能	50	20	30
	思考・判断・表現	20	10	10
後期 中間	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
	知識・技能	50	20	30
	思考・判断・表現	20	10	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
後期 期末	知識・技能	50	20	30
	思考・判断・表現	20	10	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
	知識・技能	40	0	40

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	情報	学年	1	教科書	実教出版 最新情報Ⅰ
科目	情報Ⅰ	クラス	A、B	副教材	実教出版 最新情報Ⅰ 学習ノート
		単位数	2	担当者	石倉 節子・細田 富士子

学習目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題の発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めることができる。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用することができる。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に取り組むことができるように思考力・判断力・表現力を身に付ける。	
学習方法	(1) 確かな知識と技能を身につけるよう、教科書・副教材を活用する。 (2) 座学と実習のバランスを考慮し実習時間を確保しながら技能の習得を図る。 (3) 定期考査で知識の定着と技能の習得など、情報に関する思考力・判断力を確認する。 (4) 実技テストによる知識や技能を把握、習得・改善に向けた取り組み方法を自ら考え学習に活かすようにする。	
学習評価		当該科目の評価の趣旨
	a 知識及び技能	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。
	b 思考力・判断力・表現力等	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。
	c 学びに向かう力、人間性等	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
	定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。	

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 情報社会と私たち	・情報社会・情報社会と法規と権利 ・情報技術が変革する新しい社会 情報社会の現状・特徴について理解し、個人情報や著作権がわかる。	a	・情報のモラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解する。		定期考査 課題・提出物 小テスト 授業態度	
	第2章 メディアとデザイン	・様々な情報技術について理解し、課題解決の方法をについて考える。 ・コミュニケーションの形態や特性を考え、目的に沿った方法を選択することができる。 ・各メディアの特性について理解し、目的に応じたメディアを選択することができる。					
	第3章 システムとデジタル化	・情報伝達の目的に適合するコンテンツ制作に努める。					
前期末	第2章 メディアとデザイン	・情報デザイン ・情報デザインの実践 実習	a	・情報を正確に、わかりやすく伝える方法について理解する。		定期考査 課題・提出物 小テスト 授業態度	
	第3章 システムとデジタル化	・情報のデジタル化 ・情報通信ネットワーク ・情報セキュリティ コンピュータの仕組みや基礎理論を理解する。 ネットワークの仕組みを理解し、ネットワーク犯罪から身を守る方法を理解する。	b	・プレゼンテーションの手順とスライド作成・発表について理解する。			
			c	・プレゼンテーションソフトを使った調査・発表の実践・Webページの作成。			
			a	・アナログとデジタル、2進数と情報量、デジタル化した表現、データ量の計算を理解する。			
	第4章 ネットワークとセキュリティ	b	・情報通信ネットワークの構成、Webページとメールの仕組みについて理解する。				
c	・情報セキュリティを確保する方法と技術について理解する。						
後期中間	第5章 問題解決とその方法	・問題解決 ・データの活用 ・モデル化 ・シミュレーション 問題解決の手順および問題の発見の方法、データの収集・整理する方法について理解する。 モデル化とシミュレーションの意義について理解する。	a	・問題解決の手順、問題の発見方法、解決案について理解する。		定期考査 課題・提出物 小テスト 授業態度	
	実習	実習	b	・データの収集・整理、表計算ソフトウェアの活用方法を身に付ける。 ・モデル化の意味と分類、モデル化の手順と方法を理解する。			
			c	・シミュレーションの意義について理解し、確率的モデルのシミュレーションを行う。			
				・全商ビジネス文書実務検定3級の取得に向けて実習を行う。			
後期末	第6章 アルゴリズムとプログラミング	・プログラミングの方法 ・プログラミングの実践 アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。 変数や関数を使用したプログラムを作成する。 実習	a	・アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。言語の種類と特徴を理解する。		定期考査 課題・提出物 小テスト 授業態度	
	実習	実習	b	・変数・関数を用いたプログラム、探索（線形探索、二分探索）および整列（バブルソート）を理解する。			
			c	・コーディングしたプログラムを実際に入力し実行する表計算ソフトを使ってデータの処理とグラフを用いた分かりやすい文書作成。			

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30